

# 『樹』の発行に寄せて



福島県立坂下高等学校校長 松 尾 幸 生

本校は今年、創立七十一周年目です。そして、生徒会誌『樹』は本号が五十五号になります。この巻頭言の原稿依頼をいただいたときに、「『樹』と私は同じ年であることに気づきましたが、人の年齢はゼロ歳から始まるけれども、こういった機関誌は第一号から始まるわけで、私の方が一年先に生まれたということなのかな、などとややこしいことを考えていました」といいましたところ、「七十一と五十五の差、創立十七周年目の年で、昭和四十年（一九六五年）度ということになる。とするならば、昭和四十周年あるいはその前の年に、生徒会誌発行に向けた何かがあったのだろうけれども、それは何か？」というものです。



創刊号の表紙

第13号までがこのデザイン。思って模様と背景は黒、年文字色は朱、それが外は朱、表紙自体の色は白で他は白であった。第12号のみが緑。第12号と紺、第13号は朱。それ以外は朱、山吹色で他は白であった。

革を見ると、昭和三十九年十月に創立十五周年記念式典が挙行されたことを確認しました。昭和三十九年度は創立十六周年目で、周年で言えば創立十五周年になります。

ということは、創立十五周年を機に生徒会誌を発行しようと、という気運が高まつたのかもしれないと思いながら、再び創刊号から読み直してみました。

発行に至るまでの明確な経緯は、残念ながら創刊号に見出すことはできませんでしたが、発行に当たっての思

いは、生徒会長挨拶に次のように述べられていました。

「思いあたることに愛校精神も薄らいできてしまつた感もありますが、こんなことで良いのだろうか。（略）創立以来の諸先輩が理想を目指し、伝統を築こうとして開拓者精神と愛校精神を持って育てあげた坂高の名誉を今後とも絶対に傷つけはならないと考え、名譽挽回のために生徒会誌『樹』の第一号発刊を契機として学校生活の諸問題に真剣に取り組み理想的学園建設のために努力していきたいと誓うものであります。」

「この機関誌を発刊することにより、生徒ひとりひとりがより一層の関心を生徒会に示してくださるだろうと確信しております。（略）この機関誌『樹』を発言の場として、みんなの関心が寄せられますよう、また、卒業後においても高校生活の思い出を呼び起こしてくれるものとして、皆さまにいつまでも愛していただけますよう願っております。」

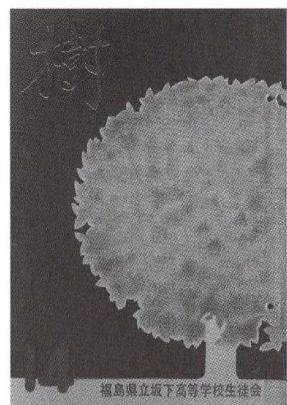
第二号以降を読み進めたところ、第四十一号の巻頭言に貴重な情報を見つけました。その内容は、創刊号の編集に携わった方（当時高校二年生で生徒会副会長）によると、創立十五周年を迎える生徒会誌を発行しようとになり、名称を募集して選定したところ『樹』と決定した。これに込められた思いは、坂高生が成長し、また、団結して成果をおさめることを、樹が成長し大樹となることに重ね合わせた。というものでした。

今回、『樹』を創刊号から繰り返し読んでみましたが、『樹』という名称に込められたメッセージについて、私なりの解釈を得ることができました。次のとおりです。

『樹』は伸びゆく本校生の象徴。

一年ごとに年輪を重ねて亭々たる大樹に成長するよう、すなわち本校

第14号の表紙



「樹」と「14」の文字は鮮やかで、赤、校名の文字と背景は爽やかで、背景は青。第14~32号のデザインが変化がある。第33号以降は、その年の生徒作品から選ばれる。

生徒会として本校生が年ごとに成長することを願う。」

結びに、生徒の皆さん一人ひとりが、人間として命と心を大切にし、プラス思考でポジティブな気持ちを持つて、活力ある地域づくりに貢献できる人物に成長していくことを改めて願い、巻頭言とします。